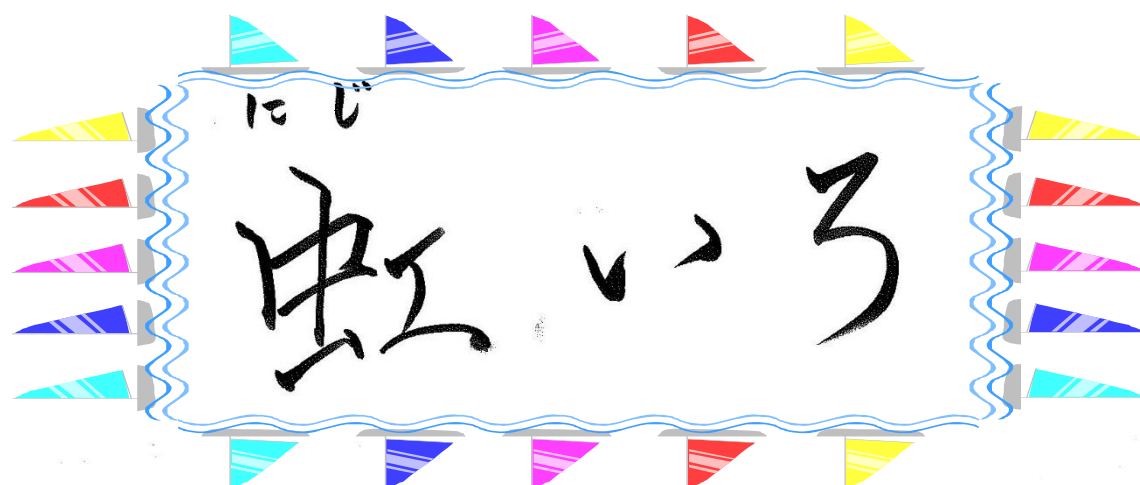




特集

「農と福祉の連携プロジェクト」
平成26年度新入職員紹介
女取の泉
その他

No. 10

「農と福祉の連携プロジェクト」 に取り組んで

現在、井上農場では玉ねぎ、にんにく、じゃがいも等の根菜類を中心に、全ての農産物を有機栽培で生産を行っています。

今回、「春の陽」さんから、農と福祉との連携プロジェクトのお話をいただき、とても興味がありましたし、単純な作業の続く生産、出荷作業などが多い自分の農業の形と、うまく連携が取れるのではないかと、感じました。

担当の方に利用者さんの手伝いをお願いしたいと伝えると、日程、作業の内容などの調整をして下さり、すぐに来てもらえる事になりました。

初日はじゃがいもの種まきを行いました。作業手順の説明がうまく出来るか不安でしたが、まったく心配する事もなく、作業を終える事ができました。いつもは、植えつけの為の穴開けと種

まき、土かけの行程を同時に行っているのですが、作業を分けて分担当で取り組んでもらう事により、安心して作業をお任せする事ができました。

二回目、三回目となると、新しく参加する利用者さんも増えてきましたが、何度か同じ作業を繰り返すうちに、得意な作業を率先して引き受けてくれる利用者さんも出てきて、とても嬉しかったです。

農と福祉との連携で、得意ではない作業を無理やりにやってもらうのではなく、この人はどんな作業に向いているのか？と考え、補いあって仕事をすることの大切さ、楽しさを教えてもらいました。

それは、福祉との連携だけの話ではなく、自分の農場のパート、アルバイトさんにも言える事で、とても大事な事に気付かせてもらったと思っています。

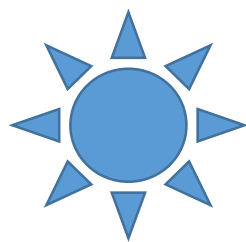
これから、この「連携」という繋がりがどんな風に発展していくのか、と

ても楽しみです。いつも、ありがとうございます。今後とも、どうぞ、よろしくお願いいたします。

井上農場

井上 能孝





農と福祉の連携プロジェクトが

始まって

最初に、春の陽の利用者さんの仕事として北杜市内にある農家さんの畑へ行くという話を聞いたとき、面白そうだと思いました。春の陽では、田んぼ約八反、畑約一町歩で稲や野菜などを作っているのです、その仕事だけでも春から秋は、十分に仕事はあるのですが、様々な特性、個性を持った利用者さんに、よりバリエーションがある仕事を試してみたいと思いました。職員の私も他の農家さんの栽培方法や工夫などにはとても興味がありました。

実際には、四月から六月の間に、五軒の農家さんのお仕事を引き受けました。じゃがいもやショウガの定植、草取り、にんにくの収穫、大葉のパック

詰めなど。作業内容を予め伺い、得意そうな利用者さんとともに仕事へ伺いました。3つの工程がある作業のうち、1つなら自信をもってできる方、目印をつけた道具をつかうと正確にできるようになる方など、農家さんと職員、利用者さんで工夫をしながら仕事を進めました。それぞれがとても勉強になりました。



また利用者さんの中には、春の陽での仕事とは違う緊張感や、農家の〇〇さんのためにもつとがんばる！という気持ちが生まれ、春の陽では見えたことのないがんばりや集中力が見えることもあり、微笑ましい驚きがありました。

参加された利用者さんの保護者の方からは、地域の中で働けるなんて嬉しいですという声もありました。春の陽での仕事も地域へ繋がられるように心がけてはいますが、よりダイレクトに地域の方と一緒に働き、お互いに理解しあえることはこのプロジェクトの面白さだと思います。今後も働き方の新たな可能性や、利用者さんの見えなかった特性などがみられそうので楽しみです。



春の陽

関根 夢乃

平成二十六年新人職員紹介欄

星の里

この度星の里に配属になり緊張と不安でいっぱいですが、早く仕事に慣れ早く利用者さんの名前をおぼえ、私にできることを精一杯やっていきたいと思っています。

細田 明日美

この度新任致しました、平賀由香莉です。何もかもまだまだ未熟で皆さんにたくさんご迷惑をおかけするかと思いますが、日々勉強と思い精進していきたいと思っています。また一日でも早く、仕事をこなせるように利用者様との信頼関係をしっかりと築けるように、努力していきたいと思っていますので、これからもどうかよろしくをお願いします。

平賀 由香莉

この度星の里へ配属になりました。ここの施設で学べる事は多いと思います。先輩方に多くの事を教えていただきながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。利用者さんに合わせた支援がこれから一杯できるようになりたいです。これからも星の里の職員さんとしてよろしくお願い致します。

三井 悠

この度星の里に配属になり不安でいっぱいですが、一つ一つ学び相手を思う気持ちと笑顔を忘れず利用者さんと過ごしていきたいと思っております。まだまだ分からない事などたくさんありますが、よろしくをお願いします。

小林 詩織

4月から星の里に配属されました伊藤美咲です。まだ慣れないことばかりですが、明るく笑顔を大切に頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

伊藤 美咲

はじめまして。わからないことだらけですが、一生懸命頑張りたいと思います。これからよろしくをお願いします。

日向 成美

私は元福祉施設の職員でしたがしばらく仕事から離れていました。その為微力ではありますが60歳近くなってきたのでキツイ面も多々あるけど自分なりに出来る所までやっていきたいと思っております。

池田 比呂晃

昨年11月から派遣で働いていましたが、4月から正規職員として採用されました。これからも、がんばって行きたいと思っています。まだわからない事だらけですが、よろしくお願い致します。

藤本 良介

キッズクラブひまわりから出向という形で星の里で働かせていただいています。必死に楽しく仕事をしていきます。よろしくお願いします。

山坂 太相



春の陽

春の陽に配属になりました村瀬成美と申します。美しい自然の中で利用者さんから学び、利用者さんと共に成長していきたいと思っています。何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

村瀬 成美

4月より春の陽にお世話になっていきます。毎日笑顔で活動していきます。よろしくお願ひします。

伊藤 友裕

利用者から気軽に話し掛けられる職員になれればと思います。

阿部 通洋

春の陽に配属になりました鴨狩知美です。利用者さんと関わる中で、少しの変化も気付ける支援員になれる様日々精進していきたいと思っております。笑顔絶やさず“をモッ”に努力していきたいと思ひますので、今後ご指導の程よろしくお願い致します。

鴨狩 知美

利用者の皆さまがやりがいと、生きがいを持った生活ができるようお手伝いしていきます！そのために私自身も日々精進します！

白川 邦夫

自分に何が出来なのか徐々に見つけていき、100%近く自分を活かせるように頑張りたいと思います。

仲山 翔太

豆の花。パン工房に勤務させていただきます。おいしいおやつを皆様にお届けします。

塩島 由美子

すごく新たな発見がある毎日です。皆さんと一緒に楽しく働いていきたいと思っています。

石川 治子



葉の花

自分の持っている力を出来る限り、発揮できるよう頑張りたいと思います。利用者の方の個性を理解し、寄り添って支援が出来るよう勉強にも励んでいます。

浅利 美衣

キッス

これから精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

宮坂 正介

センター

初めまして。支援センター陽だまりに配属されました新人の長田美咲です。まだまだ右も左も分からない私ですが、利用者の皆さんが地域で安心した生活を送れるような支援をする!!ことを目標に少しずつ精進していきたいと思っています。たくさん迷惑をかけると思いますが、優しく：時々厳しく指導して下さい。こんな私ですが、これからよろしくお願いします。

長田 美咲

出来るだけ家庭的な料理で皆さんを迎えたいと思います。

浅原 友子



“ほうとう”―繋がる想い

「楽一」と染めぬかれた白いのれんをくぐる、「いらっしやいませ。」と、一斉に明るいついで迎えてくれる。

ここは、甲州名物「うまいもんだよ。かぼちゃのほうとう。」と昔から言われた、手作りほうとうの店である。肉と魚以外は、野菜も小麦をはじめとする穀類も、星の里ならびに小荒間地域で穫れる有機・無農薬のもの。秋口になると、地域の方が生産したきのこの入った、「きのこほうとう」もメニューに加わる。

まさしく一から始まる、楽一のほうとう作り。「粉をこねる。」「のし棒にまいてはのし板の上でのししていく。」「ただんで均等に切る。」見ていて見飽きぬとは、このことか。



利用者さんの日中活動をもつ一つメリハリがあり、抜きん出たものに出来ないか。生産から加工、そして販売・消費を一連の動きにして形にしたい。そこから構想が始まった「楽一」。なにより、地域の人々と共に在りたい。そんな願いに基づいたスタートだった。その想いを汲んで当初から関わってくれ、一緒に働いてくださっている五人の皆さんに「ほうとう」に込めた思いをインタビューしてみた。

坂本昭代さん



親が野良に出て遅くまで仕事をしていたので「よつめし」(夕食は、子どもが作ったさ。五、六年生くらいになると誰でもほうとうは作れたよ。見よう見真似で覚えただね。

小林末子さん



腹いっぱいめし米が、食べた時代じゃあないので、めしの足しに野菜をうんと入れたほうとうを作っただよ。川の水が飲め、洗い物や洗濯をしてネ。ほうとうが作れなきゃ、嫁に行けん！て、言われたよ。

坂本勝子さん



私のところは十四人もいる大家族だったの。でっかい五升なべにいっぱい作ったて男おとこは力仕事をしてくるので腹が減おんなって、麺はみんな食ってしま、女おんなしが食べる頃は汁ばっか。冷たいごはん汁をかけて食うのが又、うまかった。

三井トク子さん

山梨のおもてなし料理が「ほうとう」だったのネ福島生まれなの。Wさん、Yさん(利用者さん)の二人店長は、早い時間に出勤して店内清掃から、のれんをかけてお客様を気



持ち良く迎えるまで責任を持って仕事をしているの。これから繁盛していくように店作り、メニュー構成、宣伝など、皆でやるさ。

平井昌子さん



家族みんながいろいろの囲りに集まり、なべを囲みながらほうとうを食べる。ほうとうに肉を入れるなんてここに来て初めて知ったけど、あの頃はコミュニケーションが沢山あり、人情味があったな。

「花子とアン」さながら、楽一では元気な甲州弁が飛び交っている。平均年齢は七十五歳。甲州弁に慣れ親しんだ人々の使う、ドラマとはまた少し違った、温かみのある甲州弁だ。言葉とともに積み重ねてきた人生。「子どもの頃の当たり前が、この歳になって仕事として出来るなんて嬉しい。」「ここに来てストレスが発散できる。私たちのデイスーパーの場だね。」「ずっと動ける内は働くつもりでいるさ。」「誰かに必要とされるということ、は、生きる励みと喜びにつながる。」等、皆さんの声は弾んでいる。これからも楽一は、明るい笑い声とともに続いていくことだろう。

星の里 横森 紘子

平成26年度法人総会に参加して

平成26年度の法人職員総会が3日間に分けて200名を超える全職員を対象に行われ、その中日に参加した。相談支援のふぁーすとまっぶを橋渡しに旧日野春小学校を中心とした春の陽エリアと星の里エリアに大きく二分し、エリア会議を中心に事業展開していくこと、NPOのはらファームなど新しい組織の創立検討など20周年を過ぎ、今年は人員も組織も大きく成長する名水会の大きな進展となる大切な1年だと認識した。組織は大きくなり、取り組む課題は多いけれど、その基本には利用者さん本位の一对一の対応が大切であると改めて感じた。

中川 弘一（菜の花）

理事長の挨拶で幕を開けた。厳かな雰囲気の中、統括施設長から法人理念の説明を受ける。改めて読み返すと今では当

然と思われる内容である。法人設立時からほとんど変わっていないという。時代が法人の理念に追いついて来たと言えるだろう。再度読み直してみようと思う。その後事業計画を副統括施設長から伺う。組織図を見る。大組織だと思う。職員も多い。利用者一人一人のニーズに合わせた結果だと思う。この大組織が同じ理念の下に、同じ方向を向いて日々頑張っている姿を思い浮かべる。身が引き締まる。年に一度の総会では自分を見つめ直す事の出来る有意義な時間だと思う。

豊田 誠（星の里）

私は今年の2月から春の陽で勤務させて頂いており、毎日困った事があったり、逆に利用者の方に感動させていたたりと、自身にとっても様々な刺激を



受ける日々を過ごしています。そんな日々の中で自分の課題も多くあり、一番大きな課題として、まだまだ利用者の方一人一人の特性を理解できていない点であると思っています。ハケ岳名水会の理念である「ノーマライゼーション」を実現していくためには、地域に対してのアプローチが大切であると同時に、やはり利用者の方の特性、その方の目標を理解することが最も重要だと私は考えます。今後自分に何が出来るか考えながら努力を重ねていきたいと思っています。

仲山 翔太（春の陽）



日野春學舎さくら祭りワークショップ

去る四月十二日（土）、十三日（日）と日野春學舎（旧日野春小学校）において、さくら祭りが開かれました。その中で、北村雅子先生ご指導による、アート部門のワークショップが開かれました。地域の方々や子供たち、春の陽や菜の花、キッズひまわりの利用者たちが、思い思いに、アート製作に参加していました。さくらの幹が描かれた大きな紙に、さくらの花びらの紙を様々に色付けして貼り付け、大きなさくらの木を完成していきました。



自分なんかきらいだ
 そう思えるのは
 生きてるしょうこ
 もうやだ
 そう思いうのも
 たたかてる
 しょうこ

作者の吉田沙緒里さんは星の里利用者です。

ありがとうございました！

○題字を書いてくださった方

後援会員・(資) 内田盛和堂専務

内田 安雄さん

○表紙絵を描いてくださった方

星の里利用者 下橋 誠さん

素敵な字と絵をありがとうございます。
た。

苦情処理状況について

平成二十五年四月から平成二十六年三月までに苦情処理として正式に出された案件はございませんでした。

陶芸釜はありませんか

日野春學舎では、アート活動を行っています。不要になった陶芸釜がございましたら、どうぞ譲っていただければ幸いです。

連絡先 0551・32・0035

ハケ岳名水会 事務局

讓ってください！

春の陽では、トレーニングマシン等

の健康器具や遊びに使える遊具を探しています。ご家庭で眠っている器具がありましたら、どうぞ譲ってください。(作動可能で危険を伴わないものに限りです。)

連絡先090・9617・5763

春の陽 境井まで

計報

グループホーム利用者

奥山 昭二さん 享年六十六歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

「虹いろ」も十号の節目を迎えた。まだまだ拙い編集ではあるが、皆さんのおかげで、何とかここまで出せてこれたことを感謝したい。載せたい人や事柄は多く、載せきれない、表現しきれないことが歯がゆいのであるが、編集員一同これから自分の現場を持ちながら、兼務で頑張りたいと思っている。が、亀の如くにのんびりとなったらお許しを。編集委員もかなり入れ替わり、若返った。次号からの紙面を乞うご期待！

光

社会福祉法人 ハケ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>

広報委員会スタッフ

廣瀬政光 小池翔 穂坂雄太 浅利美衣(以上菜の花) 伏見祐司 相吉謙輔 横森紘子(以上星の里) 中村萌々子 阿部通洋 伊藤友裕 村瀬成美(以上春の陽) 清水めぐみ 中村和稔 長田美咲(以上陽だまり) 望月杏沙美(ぽーら) 立川瞳(相談支援)



ヒョウモンリクガメ